

# フィールド レポーターだより!!



2012年度 第2回調査

## 「身の回りの生き物と環境について」調査報告書

今回は、身の回りで気軽に参加できる調査をと、皆さんの長年の経験と感覚を活かし、こたつの中でも参加できる面白いテーマになりました。身の回りの環境を生活の中で常に観察し、目を向けてきたフィールドレポーターだからこそできる調査でした。気軽にできて良かったと好評の声もあり、本当にたくさんの情報をご回答いただき、皆さんの関心の高さに驚かされました。

「身の回りの生き物と環境について」を調べることになったきっかけは、平成25年度に琵琶湖博物館で行われた第21回企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から 世界からー」の開催でした。この企画展示は、「生物多様性」について優しく楽しく奥深くみんなで知ることから始めよう、と企画したものでした。湖国の生き物が大集合し、実物標本での生き物の数の多さが人気でした。展示室を出る時に、こんなにたくさんの生き物があるんだと、一つでも好きな生き物を見つけてもらえたなら嬉しいです。それが、身の回りの生き物に関心を持つきっかけであり、その一つ一つの関心が生物多様性の維持につながるのだと思います。

「生物多様性」という言葉は、①生態系の多様性、②種の多様性、③遺伝子の多様性の3つの視点があるとされています。生態系とは、森、川、干潟などの環境のタイプです。種とは、生き物の種類のことで一番イメージしやすいでしょう。遺伝子の多様性とは、同じ種類の生き物でも地域によって遺伝子が異なるということです。すべてが複雑に絡み合っているため、3つの視点で考えることが重要です。ある生き物を守るためには、その遺伝子を守り、他の種類との関係を守り、それらが棲む環境そのものを守る必要があります。

今回の調査から、非常に多くの関心ごとが浮かび上がりました。増えたと感じる生き物の中で目立っていた外来種は、繁殖力が強いという印象がありますが、適応力があると言った方が良いかもしれません。日本の在来種であるクズやコイなども海外では外来種として増えています。日本、外国の種ともに、適応力がある生き物は生き抜くことができます。また、増えた減ったという感覚は、生き物は変化していなくても、実は皆さんが暮らす場所や暮らし方が変化し、見える様子が変わっていることも考えられます。人が手を入れることで維持されていた環境は手入れが無くなれば変化し、その生き物も変化します。水田はわかりやすい例で、知らぬ間に人の活動が生き物の棲む環境を創り出していることもあるのです。また、「複合的な要因だ」と指摘されている方も多かったように、ある生き物だけではなく生き物同士の食う食われるの関係まで、広い視野で観察をすることが解明のカギになるでしょう。今回出た多くの疑問は、今後の調査テーマのタネになったと思います。

また皆さんの「残したい場所」を巡ってみたいになりました。自分の町に好きな場所があれば、地域に愛着を持ち暮らしを豊かにしてくれます。そこに存在する生き物と環境の関係を見つめ続けていきたいものです。

学芸員 澤邊久美子

# 「身の回りの生き物と環境について」調査結果報告書

フィールドレポーターではこれまでたくさんの生き物に関する調査を行ってきました。今までの調査経験からうまれた感覚をいかして、身の回りの生き物や環境の変化について、感じていること、気づいていることをアンケート調査しました。

なお、このアンケートの結果については、回答者が感じている事例についてまとめているもので、実際にフィールドレポータースタッフや博物館で検証したものではありません。

## 1. アンケート参加者について

参加者数：45人

性別：男性 30人 女性 15人

年代：

- a. ~9歳 0人
- b. 10~19歳 2人
- c. 20~29歳 0人
- d. 30~39歳 1人
- e. 40~49歳 6人
- f. 50~59歳 11人
- g. 60~69歳 10人
- h. 70歳以上 15人

表1. 調査者の居住地 (人)

大津市	12
草津市	8
守山市	8
高島市	4
甲賀市	3
長浜市	3
近江八幡市	2
米原市	2
野洲市	1
東近江市	1
彦根市	1

## 2. フィールドレポーターの生き物や環境に関する関心度について

アンケートでは以下の3つの設問に対する回答で、身の回りの環境や生き物に関心が高いことが分かりました。「昔と比べて増えている、減っていると感じる生き物がありますか？」という設問には全員がいると答えていて、多くの方が具体的な内容も明記されていました。

「生物多様性」という言葉を知っていましたか？

- a. 初めて聞いた 1人
- b. 聞いたことはあるが意味は知らない 4人
- c. だいたいの意味は知っている 40人

あなたは自然環境や生き物について興味や関心がありますか。

- a. 非常にある 24人
- b. ある 21人
- c. あまりない 0人
- d. ない 0人

昔と比べて増えている、減っていると感じる生き物がありますか？

- a. いる 45人
- b. いない 0人

### 3. 生き物に関する興味関心、生き物への影響について

#### 3-1. 生き物に関して興味関心のあること

どのような事に興味関心があるかについて、以下の項目から複数回答選んでもらいました。回答の多い順に「c. 開発などによる環境変化」「e. 外来生物」「d. 人間の活動や暮らし方」となりました。

「f. 台風や地震などの自然災害」「m. 山登りやダイビングなどのレジャー」は回答が少なく、生き物関係に比べて自然災害、レジャーなどに関心を持っている人は少ないようです。その他に「琵琶湖の水質、水位等による動植物（特に魚）への影響」「高齢化、過疎化による環境の荒廃」「河川の水生昆虫の分布の変化」などに関心があるという意見もありました。

表 2. 興味関心があること（複数回答可） (件)

c. 開発などによる環境変化	30
e. 外来生物	25
d. 人間の活動や暮らし方	24
i. 植物	23
a. 生物多様性	21
h. 動物	19
j. 山 海 森 川など	18
b. 温暖化	16
l. 生物が環境の保護活動	16
g. 鳥獣による農作物の被害	15
k. 漁業 農業 林業	12
m. 山登りやダイビングなどのレジャー	8
f. 台風や地震などの自然災害	7
n. その他	3

#### 3-2. 現在の生き物の生息に大きく影響していると思うもの

現在の生き物の生息などに影響を与えていると思うものを3つ選んでもらいました。回答の多い順に「c. 開発などによる環境変化」「d. 人間の活動や暮らし方」「a. 生物多様性」となりました。

表 3. 影響を与えていること (件)

c. 開発などによる環境変化	40
d. 人間の活動や暮らし方	28
a. 生物多様性	21
b. 温暖化	17
f. その他	6
e. 台風や地震などの自然災害	2

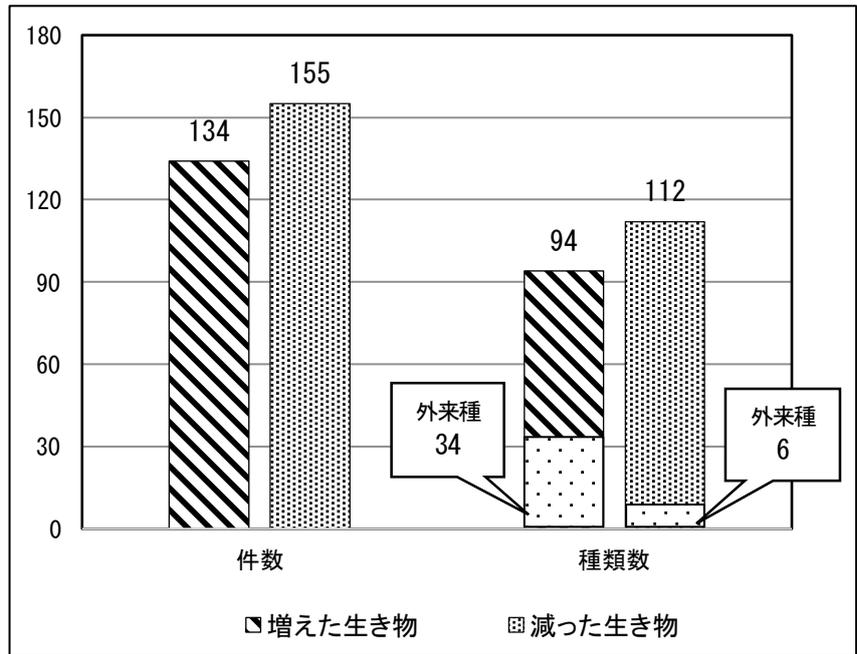
生き物に関して興味関心関心があること、生き物に影響を与えているものについて、両方で「c. 開発などによる環境の変化」「d. 人間の活動や暮らし方」の回答が多くありました。これは回答者の年齢層が高く、見てきた時間（昔と今）が長いことで、比べられる事が多くあるためではないでしょうか。

### 4. 増えた、あるいは減ったと感じられる生き物について

#### 4-1. 増えた・減ったと感じる生き物の件数と種類数について

身の回りで昔と比べて増えている、減っていると感じる生き物がある、と全員の方が思われていました。その生き物について、種類、いつ頃から、どこで（市町名、地名）、原因は何だと思うかについて回答してもらいました。

増えたと感じる生き物は 134 件、減ったと感じる生き物は 155 件報告されました。それぞれの種類数はグラフ 1 のようになりました。そのうち、外来種を示し比較しました。外来種の種類数は増えたと感じる生き物で 95 種類のうち 34 種類、減ったと感じる生き物で 112 種類のうち 6 種類で、増えたと感じる生き物で外来種が多くあがりました。なお、「種類数」については、総称および種名以外でかかっているものについても、1 種類としてかぞえました。

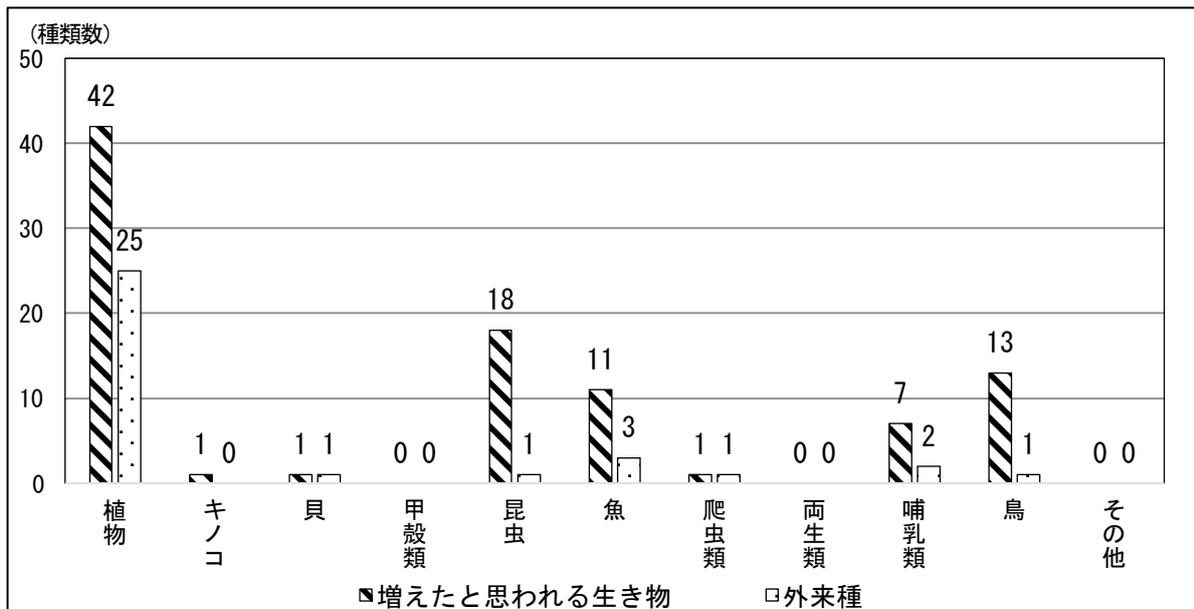


グラフ 1. 増えた・減ったと感じる生き物についての件数と種類数

#### 4-2-1. 増えたとされる生き物、分類群ごとの種類数について

増えた、減ったと思われる生き物の種類を分類群ごとにわけ、分類群ごとの種類数を調べました。各分類群に含まれる種の詳細については、表 4、表 5 を参照ください。

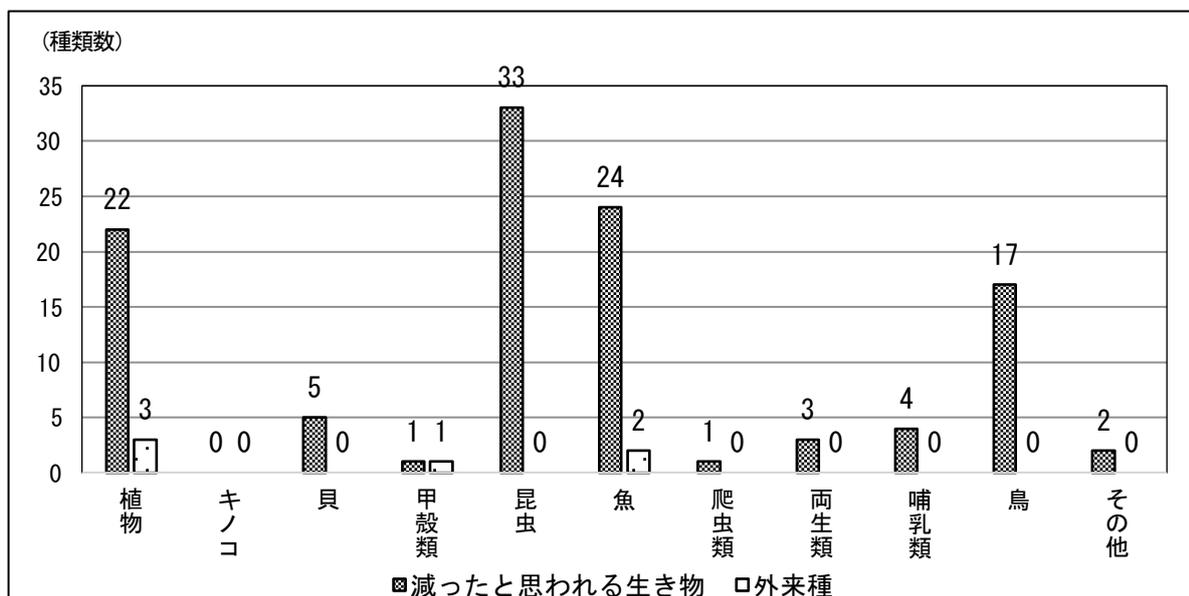
増えたとされる生き物は植物が多く、その半分以上は外来種でした。他の分類群でも外来種が数種類含まれています。



グラフ 2. 増えたとされる生き物分類群ごとの種類数

#### 4-2-2. 減ったと思われる生き物、分類群ごとの種類数について

減ったと思われる生き物では、昆虫、魚、植物、鳥の種類が多くあげられました。その中で、昆虫と鳥については外来種は含まれていません。



グラフ3. 減ったと思われる分類群ごとの種類数

#### 4-3-1. 増えたと感じる生き物とその原因について

原因についていくつかの共通する項目ごとにまとめました。ほとんどのアンケートで原因についての回答が書き込んであり、よく観察されていることが分かります。「a. 人が持ちこんだもので、強い繁殖力があり増えた」が一番多く、この種類はほとんどが外来種（表4参照）でした。

#### 増えた原因と感ずるもの

- a. 人が持ちこんだもので、強い繁殖力があり増えた・・・33（件）  
（オオカワヂシャ、オオキンケイギク、オオフサモ、アライグマ、ソウシチョウなど）
- b. 外敵の減少、耐性、餌の確保・・・19  
（ムクドリ、カラス、ヒヨドリ、オナガガモ、コハクチョウ、イナゴなど）
- c. 環境を管理しなくなったため・・・13  
（カシノナガキクイムシ、タケ、クズ、ホテイアオイ、ニホンジカ、イノシシなど）
- d. 養殖や保護、人工的な環境整備・・・12  
（ゲンジボタル、カブトムシ、アオサギ、カイツブリ、ハルザキヤマガラシ、ナマズなど）
- e. 環境が攪乱された場所に適応した・・・9  
（ヒメスイバ、ベニバラボロギク、クズ、ススキ、ヘクソカズラ、セイタカアワダチソウなど）
- f. 地球温暖化の影響・・・9  
（クマゼミ、ツマグロヒョウモン、カシノナガキクイムシ、アサギマダラ、アオマツムシなど）
- g. 環境が合うようになった、棲家の増加・・・5  
（イサザ、コウモリ、ゴキブリ、タケ、ササ）
- h. わからない・・・4  
（カメムシ、オオキンケイギク、セイヨウタンポポ）
- i. 生息場所の減少、特定の場所に多く出るようになった・・・3  
（ムクドリ、ヒヨドリ、カラス）
- j. 死ぬ数が減った・・・3  
（ニホンジカ、イノシシ）
- k. その他・・・7
- l. 原因記入なし・・・13

4-3-2. 減ったと感じる生き物とその原因について

原因についていくつかの共通する項目ごとにまとめました。一番多かったのは、「a. 木の伐採や河川改修などの環境破壊、環境整備、開発」で環境破壊が原因という考えでした。次に多かったのは「b. 農薬の影響、農業のありかたの変化」で、滋賀県の方は農業への関心が高く、農法や減反など農業が生き物に影響すると考える人が多いようです。

減った原因と感ずるもの

- a. 木の伐採や河川改修などの環境破壊、環境整備、開発・・・66（件）  
（イケチョウガイ、リス、キツネ、フクロウ、ウグイス、ヘビ、ナマズ、フモトスミレなど）
- b. 農薬の影響、農業のありかたの変化・・・24  
（トンボ類、ヘイケボタル、スズメ、冬の渡り鳥、ツチガエル、メダカ、タナゴ類など）
- c. よくわからない、複合的な原因では・・・19  
（ユスリカ、ミズアオイ、アサザ、ワタカ、ヨタカ、アマサギなど）
- d. 特定の種類が増えたため・・・17  
（オオミノガ、ニイニゼミ、アブラゼミ、カンサイタンポポ、松の木、メダカなど）
- e. 異常気象、災害・・・9  
（アマカ、クロツツトビケラ、ヘビトンボ、ミズメイガ、スナヤツメ、イサザなど）
- f. 生き物が好む環境がなくなった・・・8  
（ツバメ、カッコウ、フクロウ、ゲンジボタル、タイリクバラタナゴ、アリジゴクなど）
- g. 人による乱獲、駆除、他の動物による捕食・・・5  
（ホテアオイ、サギソウ、ササユリ、エビネ、ゲンゴロウなど）
- h. その他・・・11
- I. 原因理由なし・・・3

4-3-2. 増えた・減った双方で報告された生き物

増えた・減った双方で報告された生き物が表6のようになりました。同じ種類で増えているものと、減っているものがあるのか、いくつかの種類について原因をあげ、考えてみます。

増えたと感じるシジミについて、アンケートの内容（「渡り鳥のあしについてやってきたと（中国から）農家の方が言っておられましたか本当？」というコメント）から増えているのは外来種、減ったと感じるシジミは、40-50年前から減ったとあり、在来種のシジミと考えられます。

ゲンジボタルについては増えた原因としては人工的な保護、環境整備により増えたとありました。減った原因としては水質汚染や河川改修など環境悪化によるものでした

ナマズも増えたという原因は、県の「魚のゆりかご」事業に区と区の農業組合が積極的に取り組んでいる結果だとありました。減った原因として上流の河川工事で流れが弱められているとあり、以前は5月の雨時期に産卵のためにのぼってきていたとありました。

ホテアオイは川掃除をしなかったところは増え、川掃除をして一斉駆除をしたところは減ったようです。

このように人間の取り組み、活動が大きくかわっているといます。それによって同じ生き物でも、ある場所では増えたと感じ、ほかの場所では減ったと感じるのだと思われます。また、増えた、減ったと感じる生き物が、いつからなのかという比較する時間も重要だと思われます。

表6. 増えた、減った双方で報告された生き物

★	ホテアオイ	植物
★	セイタカアワダチソウ	植物
	シジミ（増：在来 減：外来）	貝
	ゲンジボタル	昆虫
	ホタル	昆虫
	イサザ	魚
	カワムツ	魚
	タナゴ	魚
	ナマズ	魚
	フナ	魚
	ムクドリ	鳥
	キジ	鳥

表4. 増えたと思われる生き物一覧(★は外来種)

	増えたと思われる生き物	報告件数	分類		増えたと思われる生き物	報告件数	分類
1	アカソ	1	植物	47	イナゴ	2	昆虫
2	アカメガシワ	1	植物	48	カシノナガキクイムシ	2	昆虫
★3	アゾラ	1	植物	49	カブトムシ	1	昆虫
★4	アメリカフウロ	1	植物	50	カメムシ	2	昆虫
★5	アレチウリ	1	植物	51	クマゼミ	3	昆虫
★6	アレチヌスビトハギ	1	植物	52	ゲンジボタル	1	昆虫
★7	オオカナダモ	1	植物	53	甲虫の幼虫	1	昆虫
★8	コカナダモ	1	植物	54	スズメバチ	1	昆虫
★9	オオカワヂシャ	1	植物	55	ツマグロヒョウモン	1	昆虫
10	オオキンケイギク	3	植物	56	白菜に来る小さな(2mm)濃紺甲虫	1	昆虫
★11	オオフサモ	4	植物	57	ホタル	1	昆虫
12	オモダカ	1	植物	58	マメコガネ	1	昆虫
★13	外来、帰化植物(キキョウソウ ヒナゲシ、ヌスビトハギ、青花のリナ リア)いろいろ	1	植物	59	モンシロチョウ	1	昆虫
14	クサネム 草合歓	1	植物	60	キチョウ	2	昆虫
15	クズ	2	植物	61	ゴキブリ	1	昆虫
★16	シロイヌナズナ	1	植物	62	センチコガネなどの糞中	1	昆虫
17	シロバナタンポポ	2	植物	63	イサザ	1	魚
18	ススキ	1	植物	★64	外来魚	1	魚
★19	セイタカアワダチソウ	2	植物	65	カワムツ	1	魚
★20	セイヨウタンポポ	1	植物	66	タナゴ	1	魚
21	竹	1	植物	67	ナマズ	1	魚
22	タンポポ	1	植物	68	ヌマチチブ	1	魚
★23	ノビエ、オモダカ、アオゲイトウ、ク サネム等の水田雑草	1	植物	69	ハス	1	魚
★24	ハルザキヤマガラシ	1	植物	70	フナ	1	魚
25	ヒツキムシ(種が衣類や犬に付く植 物)	1	植物	★71	ブラックバス	2	魚
★26	ヒナゲシ(ポピー)	1	植物	★72	ブルーギル	2	魚
★27	ヒメオドリコソウ	4	植物	73	ワカサギ	2	魚
★28	キキョウソウ	1	植物	★74	ミシシッピーアカミミガメ	1	爬虫類
★29	ヒメスイバ	1	植物	★75	アライグマ	2	哺乳類
30	ヘクソカズラ	1	植物	76	イノシシ	3	哺乳類
★31	ベニバラボロギク	1	植物	77	サル	1	哺乳類
★32	ヘラオオバコ	1	植物	78	ニホンジカ	6	哺乳類
★33	ホテイアオイ	1	植物	79	野良猫	1	哺乳類
34	マテバシイ	1	植物	★80	ハクビシン	2	哺乳類
★35	ミズヒマワリ	1	植物	81	コウモリ	1	哺乳類
36	ミゾソバ	1	植物	82	アオサギ	1	鳥
★37	ミチタネツケバナ	1	植物	83	オオバン	2	鳥
38	ヤブガラシ	1	植物	84	オナガガモ	1	鳥
★39	ヨウシュヤマゴボウ	1	植物	85	カイツブリ	1	鳥
★40	ワルナズビ	1	植物	86	カラス	7	鳥
41	葎 ヨシノコ	1	植物	87	カワウ	1	鳥
42	竹、笹	1	植物	88	キジ	1	鳥
43	イカタケ(烏賊茸)	1	キノコ	89	ケリ	1	鳥
★44	シジミ(死骸) 中国から渡り鳥に付いてきた?	1	貝	90	コハクチョウ	1	鳥
★45	アオマツムシ	2	昆虫	★91	ソウシチョウ	1	鳥
46	アサギマダラ	1	昆虫	92	ドバト(野生化伝書鳩)	1	鳥
				93	ヒヨドリ	2	鳥
				94	ムクドリ	3	鳥

表5. 減ったと思われる生き物一覧(★は外来種)

	減ったと思われる生き物	報告件数	分類		減ったと思われる生き物	報告件数	分類
1	アサザ	1	植物	57	ホタル	1	昆虫
2	アリアケスミレ(群落)	1	植物	58	マツムシ	1	昆虫
3	エサとなる食用植物	1	植物	59	ミズスマシ	1	昆虫
4	エビネ等のラン科植物	1	植物	60	ミズメイガ	1	昆虫
★5	オオマツヨイグサ	1	植物	61	ユスリカ	1	昆虫
6	オニバス	1	植物	62	アカザ	1	魚
7	カラスウリ(実)	1	植物	63	イサザ	1	魚
8	カンサイタンポポ	1	植物	64	川の雑魚	1	魚
9	桑畑	1	植物	65	カワムツ	1	魚
10	サギソウ	1	植物	66	ギギ	1	魚
11	ササユリ	1	植物	67	クロドジョウ	1	魚
12	サンショウモ	1	植物	68	小鮎	1	魚
★13	セイタカアワダチソウ	2	植物	69	小魚、フナ	1	魚
14	タチツボスミレ(群落)	1	植物	70	魚	1	魚
15	ツクシ	1	植物	71	シマドジョウ	1	魚
16	ナラ、クヌギ	1	植物	72	スナヤツメ	1	魚
17	ノカンゾウ	1	植物	★73	タイリクバラタナゴ	1	魚
18	ハンゲショウ	1	植物	★74	タイワンドジョウ	1	魚
19	フモトスミレ	1	植物	75	タナゴ類	4	魚
★20	ホテイアオイ	1	植物	76	トウヨシノボリ	1	魚
21	松の木	1	植物	77	ナマズ	1	魚
22	ミズアオイ	2	植物	78	ニッポンバラタナゴ	1	魚
23	イケチョウガイ	2	貝	79	ヒガイ	1	魚
24	カタツムリ	1	貝	80	ボテ(ボテジャコ)	1	魚
25	カワニナ	1	貝	81	ボテ、メダカなどの小川の魚	1	魚
26	シジミ(文章から在来と推定)	1	貝	82	ホンモロコ	1	魚
27	タニシ	1	貝	83	メダカ	1	魚
★28	ザリガニ	2	甲殻	84	モツゴ	1	魚
29	アカトンボ	1	昆虫	85	ワタカ	5	魚
30	アキアカネ	1	昆虫	86	ヘビ	3	爬虫類
31	アブラゼミ	2	昆虫	87	アカガエル以外のカエル	1	両生
32	アミカ	1	昆虫	88	イモリ	1	両生
33	アメンボ	1	昆虫	89	ツチガエル	1	両生
34	アリジゴク	1	昆虫	90	キツネ	1	哺乳類
35	オオミノガ	2	昆虫	91	タヌキ	1	哺乳類
36	カ、蚊	3	昆虫	92	ヒト	1	哺乳類
37	カマキリ類	1	昆虫	93	リス	1	哺乳類
38	キトンボ	1	昆虫	94	アマサギ	2	鳥
39	キリギリス	1	昆虫	95	ウグイス	2	鳥
40	クロツツビケラ	1	昆虫	96	カッコウ	1	鳥
41	ゲンゴロウ	2	昆虫	97	カワセミ	1	鳥
42	ゲンジボタル	2	昆虫	98	キジ	1	鳥
43	コオロギ	1	昆虫	99	コサギ	2	鳥
44	コムラサキ	1	昆虫	100	サギ	1	鳥
45	ジャノメチョウ	1	昆虫	101	スズメ	7	鳥
46	スズムシ	1	昆虫	102	タマシギ	1	鳥
47	タガメ	1	昆虫	103	ツバメ	8	鳥
48	タマムシ	1	昆虫	104	トンビ	1	鳥
49	チョウ類	1	昆虫	105	フクロウ	2	鳥
50	ツマグロヨコバイ	1	昆虫	106	冬の渡り鳥	1	鳥
51	テントウムシ	2	昆虫	107	ムクドリ	1	鳥
52	トンボ類	3	昆虫	108	ヤマセミ	1	鳥
53	ニイニイゼミ	1	昆虫	109	ヤマドリ	1	鳥
54	ハエ	4	昆虫	110	ヨタカ	1	鳥
55	ヘイケボタル	1	昆虫	111	ヒル、ウマヒル	1	その他
56	ヘビトンボ	1	昆虫	112	マダニ	1	その他

## 5. 自然環境が豊かでこのまま残してほしい場所について

滋賀県内で「自然環境が豊かだな」「この場所はこのまま残して欲しい」などと、思う場所をあげてもらいました。自分の家の近所から出かけて行ったお気に入りの場所など、たくさんあげていただきました。

表7. 自然環境が豊かでこのまま残してほしい場所

栗東市金勝山	饗庭野 高島市
大津市田上山	草津市ロクハ公園周辺
大津市比良	牟礼山、大津市松が丘
三上山周辺	湖北野鳥センターの近く
西の湖を含む水郷地帯	大浦のあたり（JR 永原駅～湖岸）
甲賀市土山町 瀧樹神社の森	高島市の生杉や東近江市の？杉峠前の千草街道
烏丸半島	湖国や周囲の山々
草津市さざなみ街道 バイオ研究所からのヨシ群落	天野川の霊仙山を水源とする支流 （菜種川、梓川、丹生川、枝折川、地藏川）
大津市雄琴の湖岸（ヨシ原）	饗庭野の湿地（八丁湿原、瓦屋の溜）
湖北町～松本の湖岸の風景	朽木木地山 駒ヶ岳南尾根のブナ林
金糞岳の自然林	伊吹山山頂草原植物群落（お花畑）
琵琶湖の全て	大津市桐生キャンプ場（湖南アルプス）
湖周辺全体	奥琵琶湖の湖岸
葉山川源流～河口	家の裏（堅田内湖の北側周辺）
今津浜一円	春日山（堅田駅西側）
今津町の天増川流域	神社
今津町の寒風川流域	高島市の湖岸域
大津市真野の田んぼ	旧志賀町の棚田
彦根市曾根沼緑地公園（県営）	湖南市美松自生地
高島市マキノ町在原	高島市湖西の山々
高島市朽木小川桑原一帯	特定ではないが、大きな河川の支流の上流域
長浜市土倉谷	安土山、きぬがさ山

## 6. 生き物や環境のために気をつけていること

普段の暮らしの中で生き物や環境のために気をつけていることや取り組みについて、たくさんの意見がありました。それらの意見を内容でまとめると以下ようになります。どれもすぐに実践でき、続けることができる内容です。また、1つのことだけやっているのではなく、いくつものことに取り組んでいる人も多かったです。

表8. 生き物や環境のために気をつけていること

取り組んでいる内容	件数
ゴミは持ち帰る。ゴミの分別、減量、リサイクルをする	20
エコバックを持つ	9
節電、雨水の活用など環境にやさしい生活をする	9
車の乗り方を考え、自転車や公共機関を使う	7
生ごみから堆肥を作る	6
自然観察会、環境のイベントに参加する、啓発活動をする	6
農薬や合成洗剤を使わない	5
その他	7

具体的な内容をいくつか紹介します。

- 台所の排水に気を付けています。キッチンペーパーもありますが、古くなった肌着、靴下、タオル、ハンカチ等でフライパン、皿、カレーなどの鍋をふき取ります。煮魚などは煮ごりも食べますが、湖魚をたいた煮汁はビニール袋に入れて捨てます。雨の日の新聞、ビニールに入っている袋は広告紙の大きいのを中にはさんでゴミ袋として使っています。4月からスーパーの袋が有料になりますが、なくても再利用できます。しっかりした広告紙で箱を折ってテーブルに。便利です。今の時期はイヨカン、オレンジの皮を入れて、食べ終わればそのまま捨てられます。(女性 70 歳以上：大津市)
- みんなと一緒に湖岸の清掃や高島市の「ゴミ減量作戦」に取り組んでいる。また、啓発紙を作成し、町内に配布している。多くの人に自然に親しんでいただく（環境保全の第一歩）ために、「ザゼンソウウォーク」、「エドヒガンウォーク」、「カキツバタウォーク」、「ソバ畑ウォーク」など、季節に合わせてイベントを企画し、参加者を案内している。公民館主催の自然観察会を企画し、参加者を案内し、説明している。(男性 70 歳以上：高島市)
- エコバックを使う、ゴミの分別、牛乳パックの回収、今では普通になりました。野外でとった生き物を返すときは同じ場所に返す。返せない場合は死ぬまで面倒を見て野外には放さない。(女性 40 歳代：守山市)
- 人が活動すれば環境が壊れます。豊かな生活を求めすぎていると思います。自宅ではクーラーは使いません。暖房は最小限です。農業もまた環境に良くありません。農薬、肥料を最小限としています。(男性 50 歳代：長浜市)
- 野山に出かけるときは団体で少なく少人数とする。公共交通機関を利用し、やむをえない場合も乗り合わせ（車）に配慮する。生き物の生育生息環境をあらなさい。汚れたもの、特に自然分解しないものを川などに流さない。(男性 50 歳代：高島市)

## 7. 自然環境や生き物について思うこと

自然環境や生き物について思うことを書いてもらいました。その中のいくつかを抜粋してさせていただきます。

- ▶ 人間は自然を壊したり、作りなおしたりする。生き物はそれに適応して生きてゆく力がある。しかし壊れたものは、その何倍もの年月をかけないといけない。70年も生きて実感している。身近な生きものの生命を大切に。(女性：70歳以上：守山市)
- ▶ 自然環境を悪くし、生物を減少させてきたのは私たち人間であるという反省に立って、自分たちのライフスタイルを改善し、自分の持ち味を活かして、環境保全活動をみんなと共に実践すべきである。小、中学生の時代に、もっとふるさとの自然に触れられるようにできないものかともどかしく思っている。(男性：70歳以上：高島市)
- ▶ 自然環境もその中の生き物も、いったんなくなれば元どおりにもどすことは容易にできないものであり、手遅れかもしれないが、もうこれ以上なくさないようにみんなで最大限努力していくことが大切だと思う。また、これらの取り組みを進めるためには、できるだけ多くの人に生物多様性や自然環境のことを考えてもらえるような機会、しくみを考えていく必要もある。(男性：50歳代：高島市)
- ▶ 増えた生物と言って思い浮かぶのは、私たちに害をあたえるもの、または人が導入した結果、増えすぎた物ばかりです。本来の自然であれば、バランスをとって急激な増加はしないはずですが、移入した物は意図しない弊害がどうしても出てくるようです。難しいですね。(女性：60歳代：大津市)
- ▶ 自然の懐は深く、子ども達のパワーも十分に受け入れてくれるように思う。小さな自然でも子ども達の身近にあって、そんなところで、子ども達が育ってほしい。子ども達が存分に土や草木、生き物に触れ育っていけるためにも、放射能はあってはならないものと思う。(女性：40歳代：大津市)

## 8. 最後に

今回のアンケートでは、フィールドレポーターの方々の環境や生き物に対する関心の高さがよくわかりました。特に、開発などによる環境の変化や人間の活動や暮らし方への関心が高かったことから、地域で生活している中で、自分の暮らしと生き物との結びつきを感じていることが考えられました。関心が高いゆえに増えたり減ったりしている生き物があることを感じるのだと思います。さらに、時間的な変化を感じられるのは、回答者の年齢層が高く、見てきた時間(昔と今)が長いことで、比べられる事が多くあるためではないでしょうか。

また、外来種が多くあげられたことは、固有種の多い琵琶湖や農業が盛んな滋賀県においては、在来種の減少、農業被害などを考えると、皆さんが重大な問題意識を持っていることが感じられます。

実際にアンケートにあがった生き物が増えているのか、減っているのか確認するのは難しいと思いますが、私たちがとりまく環境が変わってきているのは確かなことです。5年、10年後、生き物や環境はどのようになっているのでしょうか。次回の調査で皆さんの意見をお聞かせください。

滋賀県立琵琶湖博物館フィールドレポーター  
八尋 由佳

## 琵琶湖博物館フィールドレポーター2012年度第2回調査

### 「身の回りの生き物と環境について」

#### ◎目的

私たちの周りにはたくさんの生き物がいて、様々な環境の中で、人間を含めた生き物どうしがつながり、関係し合って存在しています。このような生き物の多様な関係(生物多様性)の重要性がいわれるようになり、その言葉を耳にすることも多くなりました。

フィールドレポーターでこれまでおこなってきた生き物に関する調査には、生物多様性に関係するものが多くありました。その中で、昔との環境の違い、増えている生き物、減っている生き物がいるということを感じられた方もいるのではないのでしょうか。みなさんの今までの調査経験からうまれた感覚をいかして、身の回りの生き物や環境の変化について、あなたが感じていること、気づいていることを教えてください。

琵琶湖博物館では、平成25年度の企画展示「生きものがたりー生物多様性 湖国から世界からー」が開催される予定です。生き物と環境、そして私たち人間との関係について考える良い機会かもしれません。

#### ◎調査方法

アンケートの項目に従ってご記入ください。  
必要な場合はコピーしてお使いください。

#### ◎調査期間

2013年2月16日～3月31日



## 「身の回りの生き物・環境について」アンケート用紙

整理番号 \_\_\_\_\_

氏名: \_\_\_\_\_ 性別: 男・女 \_\_\_\_\_

年齢(該当の年齢に○をする):

- a. ~9歳 b. 10~19歳 c. 20~29歳 d. 30~39歳 e. 40~49歳 f. 50~59歳 g. 60~69歳 h. 70歳以上

住所: \_\_\_\_\_ 郡・市 \_\_\_\_\_ 町 \_\_\_\_\_ 記入日( \_\_\_\_月 \_\_\_\_日 )  
(例: 草津市 下物町 )

◎ 以下の設問にお答えください

1. 「生物多様性」という言葉を知っていましたか。

- a. 初めて聞いた b. 聞いたことはあるが意味は知らない c. だいたいの意味は知っている

2-1. あなたは自然環境や生き物について興味や関心がありますか。

- a. 非常にある b. ある c. あまりない d. ない

2-2. 上の設問で a. b. c. を選ばれた方は、どのような事に興味関心がありますか。あてはまる項目の記号を○で囲んで下さい。(複数回答可)

- a. 生物多様性 b. 温暖化 c. 開発などによる環境変化 d. 人間の活動や暮らし方 e. 外来生物
- 
- f. 台風や地震などの自然災害 g. 鳥獣による農作物の被害 h. 動物 i. 植物 j. 山、海、森、川など
- 
- k. 漁業、農業、林業 l. 生物や環境の保護活動 m. 山登りやダイビングなどのレジャー
- 
- n. その他( \_\_\_\_\_ )

3-1. あなたの身の回りで、昔と比べて増えている、減っていると感じる生き物がありますか。

- a. いる b. いない

3-2. 「a. いる」と答えた方は、その生き物について詳しくおこたえください。

## ◆ 増えている生き物

生き物の種類	いつ頃から	どこで(市町名、地名)	原因は何だと思えますか
例: ホテイアオイ	20年ぐらい前	草津市下物町烏丸半島 琵琶湖湖岸あたり	育てていたものが捨てられた。冬が暖かくなり、枯れないから

